

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00086

研究課題名（和文）近代日本における「世界の諸宗教」像の展開に関する基礎的研究

研究課題名（英文）A Study on the Development of the Images of "World Religions" in Modern Japan

研究代表者

星野 靖二（HOSHINO, Seiji）

國學院大學・研究開発推進機構・教授

研究者番号：50453551

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、近代日本における「世界の諸宗教」像の形成過程について、いつから、どのようなものが、どのようにして流通するようになったのかといったことを検討するものである。具体的には、「世界の諸宗教」について取り上げている明治初期の刊行物をリストアップし、特に黒田行元（鞠廬）の『開化新説』（1874）・『万国立教大意』（1875）について考察した。明治中期について、宗教雑誌を幾つか検討し、特に『日本之教学』について考察した。他に、三教会同の際の床次竹二郎の宗教観、また姉崎正治の「日本宗教史」の構想における宗教観なども検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果として、明治中期頃までの「世界の諸宗教」像について、黒田行元の著作や、『日本之教学』など、幾つかの具体的な事例に新たな光をあてた。『日本之教学』については目次を作成して公開した。本研究を通して、一方では明治初期から「世界の諸宗教」を叙述する試みがなされてきたこと、他方で、明治中期頃までの試みは、その後の展開に必ずしも直接継承されていかなかったことが明らかになった。後者に関連して、訳語を含めて標準化・体系化の途上にあつたことについても論じた。その上で、叙述の前提となる宗教そのものの枠組に関していえば、例えば宗教進化論的な視座が共有されていたことなどを指摘した。

研究成果の概要（英文）：This study examines the development of the images of "world religions" in modern Japan. Specifically, publications related to "world religions" during the early Meiji period are listed, and the works of Kuroda Yukimoto (Kikuro), such as Kaika Shinsetsu (1874) and Bankoku Rikkyo Taii (1875), are examined. Several religious journals of the mid-Meiji period are checked, and Nihon no Kyogaku is studied in depth. In addition, Tokonami Takejiro's views on religion at the Assembly of the Three Religions are considered, as are Anesaki Masaharu's views of religion in his conception of the history of Japanese religions.

研究分野：宗教学

キーワード：「世界の諸宗教」像 宗教のイメージ 比較宗教 近代日本宗教史 宗教概念 宗教についての知 『日本之教学』 黒田行元

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

現代日本において「世界の諸宗教」についての典型的な語り方は広く流布しているが、その起源や展開について、未だ十分に検討されてきていない。他方、近代日本における「宗教」概念の歴史性については、既に一定の研究蓄積がある。「世界の諸宗教」は諸「宗教」である以上、「宗教」の個別具体的な現れとして考えることができるが、「世界の諸宗教」に関する知識や表象が、近代の日本においてどのように提示され、また受容されていったのかという論点は、これまで主題化されてこなかった。これらに鑑み、本研究では「宗教」概念の歴史性をめぐる諸研究と噛み合わせる形で、近代日本における「世界の諸宗教」像の展開を系譜学的に考察することを試みた。

2. 研究の目的

本研究では、以下のような論点を念頭に置きながら、近代日本における「世界の諸宗教」像の歴史的展開に考察を加える。

(1) 「宗教」概念研究との接続

近代日本において「宗教」という概念が西洋語の *religio* にあたる言葉の翻訳として入ってきたこと、またそれが 1880 年代にある程度一般化したことは既に論じられてきている。しかし、その「宗教」の個別具体的な現れとして考えられる「世界の諸宗教」について、それらに関する知識や表象が、近代の日本においてどのように提示され、また受容されていったのかという論点は、これまで十分に研究されてきていない。これについて、個々の「世界の諸宗教」を同じ「宗教」として位置づけること自体、近代的な「宗教」概念の展開と並行して行われていったことを考えるならば、近代日本における「世界の諸宗教」の提示と受容の諸相を考えることは、日本の「宗教」概念そのものを、従来の研究とは異なる方向から照らし返すことにもつながる。

(2) 個別の宗教伝統の歴史の拡充

本研究は個々の「世界の諸宗教」の歴史を、より広い視点から拡充するものでもある。もちろん個別の宗教伝統の研究史については蓄積があるが、そこでは(全く正当に)「正しい」理解が前提とされることになる。これに対して本研究はある宗教伝統に関わる、誤謬や誤解をも含んだ表象一般に目を向けることで、より広く社会の中におけるイメージについて論じ、それによって個別の宗教伝統の歴史を拡充することを試みたい。

(3) トランスナショナルな同時代性

近代日本における「世界の諸宗教」像は、例えば *World Religions* というヘゲモニックな見方の成立(増澤知子『世界宗教の発明』)のような西洋における同時代の動向と無縁ではなかった。これは一方で知の翻訳の問題であるが、他方でシカゴで行われた万国宗教会議(1893)のように、東洋の、あるいは日本の「宗教」を西洋世界に提示するという何ほどか相互性を持つ回路が実際に存在していたということでもある。こうしたトランスナショナルな同時代性を念頭に置いて検討する。

3. 研究の方法

本研究では、まず「世界の諸宗教」を取り上げている著作・論説を可能な限り蒐集し、リスト化する。リスト化の後、重要であると思われる著作・論説について、踏みこんだ内容の検討を行っていく。

歴史的な展開を把握することを念頭に置いているため、まず明治中期以降よりも、明治初期について、重点的に調査する。ただし、明治中期以降についても、具体的な事例に即して論じていく。

その際に、記述内容の真正性をひとまず棚上げする。つまり、いつから「正確な」記述がなされるようになったのかを問うのではなく、誤謬や誤解を含んだ記述をも蒐集し、その誤謬や誤解が記述された背景にも目を配りながら、それらについても考察の対象とする。

また、「世界の諸宗教」に関する著作・論説は、明示されているかどうかは別として、翻訳が含まれていることが想定される。翻訳元の文書についても、可能な限り調査して同定し、元の文書がどのような文脈において記述されていたのかについても検討する。

重要な資料については、一般に公開することを念頭に置いて、目次の作成、誌面の電子化、また解題の作成などを行う。これによって、今後、他の研究者が該当資料にアクセスするための利便性を高める。

4. 研究成果

以下に、本研究の主要な成果を挙げる。

(1) 明治初期における「世界の諸宗教」像についての知見

本研究の成果として、まず明治初期における「世界の諸宗教」像について、一定の知見を得ることができた点を挙げるができる。明治初期の「世界の諸宗教」については、体系的な知識が成立の過程にあったため、記述されている事実が誤っていたり、あるいは訳語がその後継承されなかったりしたこともあって、ほとんど検討の俎上に載せられてこなかった。これに対して、1870年代に「世界の諸宗教」について言及している著作が一定数見られることを指摘した上で、例えば黒田行元（麴廬）の著作のような、「世界の諸宗教」像の歴史的展開という視点から見て興味深い事例を取り上げて検討した。

1870年代における「世界の諸宗教」に関連する著作の調査・検討

調査の結果、例えば以下のような著作があることを指摘し、一部について内容を検討した：箕作麟祥（訳）『泰西自然神教（4巻）』（1874～1876）[William Fleming *The Student's Manual of Moral Philosophy*の抄訳]、永田方正『西洋教草（上中下）』（1875）[聖書の「勸善」に関する部分の抄訳。英訳からの重訳]、佐々木祐筆『和洋神伝』（1875）[八田知紀『大公法論略』への反駁。キリスト教批判]、山崎久太郎（訳）・石川舜台（評）『仏教論評（2巻）』（1876）[James Freeman Clarke *Ten Great Religions*の「仏教」の部分の抄訳と評]、小野彼得（訳）『旧約聖史略（2巻）』（1876）[正教徒による聖書和訳]、堀江復（訳）『新約聖史略（2巻）』（1876）[正教徒による聖書和訳]、『教の鑑』（1877）[正教の手引き書]、小栗栖香頂『喇嘛教沿革（3巻）』（1877）[チベット仏教の概説書]、中島弘毅『外教通考』（1878）[主としてキリスト教についての評]

黒田行元の著作の検討

幕末から明治にかけての洋学者である黒田行元の、特に『開化新説』（1874）と『万国立教大意』（1875）の内容を検討した。後者は、様々な宗教伝統（黒田は「教法」を用いている）に焦点を合わせた著作であり、この種の本としてはかなり早い時期に出されたものであると考えられる。黒田が西洋の地理書（宗教書ではなく）を読んで、独自に日本語訳していること、かつ特に東洋の宗教伝統については自らの知識による叙述を加えながら著述していることを述べた。特徴として、黒田がプロテスタントをより優越的な宗教として描いていること、またカトリックへの批判が散見されることなどを確認できたが、これは黒田がプロテスタントの弁証を意図していたわけではなく、もっぱらプロテスタント文化圏の書籍を参照していたことからくるものと考えられることができると指摘した。

(2) 「世界の諸宗教」に関連する雑誌の情報整理

キリスト教系の雑誌の検討

『七一雑報』、『六合雑誌』、また『ゆにてりあん』など、キリスト教系の雑誌について、「世界の諸宗教」に関連する論説の内容を検討した。『七一雑報』については目次の電子化を行った。また、これらの雑誌に掲載された翻訳論説の翻訳元の同定を行った。翻訳元は、リベラルなキリスト教系の論者によって書かれた論説が多いことが、あらためて確認できた。また、他の仏教系の雑誌や『日本之教学』に掲載された論説があったこともわかった。

『日本之教学』の検討

諸宗教を中立・公平に取り上げるとする編集姿勢を掲げた雑誌『日本之教学』（1887-1889、全28号）について、目次を作成して公開し、内容を検討した。誌面の電子化も行ったが、これについては著作権処理に懸念があるため公開はしていない。

『日本之教学』は編集者の内山正如の中心となって博文館から出された諸宗教（創刊後に英題 *The Religions of Japan* が付された）を取り扱う雑誌であるが、掲載されている多くの論説が他の雑誌からの採録であることもあって、これまでほとんど検討されてこなかった。しかし、独自の論説も掲載していること、また採録されている諸論説が同時代の「世界の諸宗教」像のある意味で良く描き出していることなどから、取り上げる意義のある雑誌であると考えられる。

内容として、仏教関係の論説には、キリスト教批判も見られるが、仏教の改良について論じる論説も多く、当時多く出された仏教雑誌の傾向を反映している。キリスト教関係の論説には、『六合雑誌』に加えて『正教新報』からの転載や、来日宣教師の手になる論説も見られる。日本には日本の独立したキリスト教があるべきであるという社説や投稿があり、また訳出の経緯は未詳であるが、クラークやサベージといったアメリカのユニテリアン神学者の論説の翻訳も掲載されている。神道関係の論説について、千家尊福、芳村正乗、柴田礼一ら神道家の寄稿に加えて、神道を主題とした論説も散見された。また、ヒンドゥー教については一定の言及があるが、イスラームやユダヤ教についてはあまり言及がない。

同誌の編集方針として、やはり宗教の道徳的な側面における社会的有用性が重視されているように見えること、また個の救済に関わるような事柄が取り上げられておらず、少なくとも主要

な論点とはなっていないことを確認した。これはやはり明治中期の「宗教」をめぐる状況を反映させているものであると考えられると論じた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 星野靖二	4. 巻 267・268
2. 論文標題 明治初期における世界の「諸宗教」像 黒田行元による著作の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神道宗教	6. 最初と最後の頁 3-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 星野靖二	4. 巻 43
2. 論文標題 「合理的宗教論」と「実存的宗教論」 井上円了と清沢満之を取り巻く同時代的な文脈	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代と親鸞	6. 最初と最後の頁 176-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 星野靖二	4. 巻 12
2. 論文標題 『経世博議』解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 3件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 星野靖二
2. 発表標題 宗教学成立以前の「世界の諸宗教」像についての一考察
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 HOSHINO, Seiji
2. 発表標題 "Sankyō kaidō;" (the meeting of three religions) in 1912 and the relationship between the religious and the secular in modern Japan
3. 学会等名 36th Conference of International Society for the Sociology of Religion (ISSR) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 星野靖二
2. 発表標題 「新神学」と「新佛教」 - 明治中期における「宗教」の再解釈 -
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 星野靖二
2. 発表標題 シカゴ宗教会議と「日本のキリスト教」をめぐる諸相
3. 学会等名 科研・三菱財団助成金共催 グローバル禪ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 星野靖二
2. 発表標題 明治前期における「世界の諸宗教」像の形成についての一考察
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 HOSHINO, Seiji
2. 発表標題 The "Reformation" and "New Buddhism"
3. 学会等名 Roundtable: "Historiography on (Early) Modern Religions" (Historians' Workshop) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 HOSHINO Seiji
2. 発表標題 Nakanishi Ushiro: His Biography and the History of Religions
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 星野靖二
2. 発表標題 日本宗教史の叙述と「古代」 宗教学の展開との関連において
3. 学会等名 International workshop "The Idea of Antiquity in Modern Japanese Religious Culture" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Hans Martin Kramer and Orion Klautau, eds.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Hawaii Press	5. 総ページ数 300
3. 書名 Buddhism and Modernity: Sources from Nineteenth-Century Japan	

1. 著者名 島園進・末木文美士・大谷栄一・西村明編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 288
3. 書名 維新の衝撃（近代日本宗教史第1巻）	

1. 著者名 高満也・吉永進一・碧海寿広編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 353
3. 書名 日本仏教と西洋世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『日本之教学』関連情報について https://docs.google.com/document/d/1wLKE1oi4f1Db8FCtQwFAFyzpP5P4RpbxTMhG0h1c2iw
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関